

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300103		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム徳地あいおい苑		
所在地	山口市徳地堀1785-1		
自己評価作成日	平成23年7月28日	評価結果市町受理日	平成24年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の暮らしが地域の一人であるために、地域のイベントなど外出の機会を増やすと共に、家族など気軽に立ち寄れる雰囲気作りを努めている。
その方が、安心して穏やかに毎日が過ごせるよう、職員・家族が情報共有が図れるようにし、職員同士が同じ方向・同じ目線で支援できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入され、清掃などの地域活動に積極的に参加されるほか、自治会の総会で事業所の避難訓練への参加や見学を依頼されたり、地域の自主防災組織に加入されるなど地域との協力体制を築くよう取り組んでおられます。保育園児や中学校コーラス部の来訪や各種ボランティア等の受け入れ、野菜の差し入れや散歩時の挨拶など地域の人と日常的に交流しておられるほか、昔の同僚や友人、おけいこごとの先生の来訪があったり、家族の協力をえてお墓参りや馴染みの理容院をりようされるなど馴染みの関係が途切れないように支援され、理念の「共に生きる」の実践に努めておられます。毎月、利用者一人ひとりの健康状態や生活状況を詳細に記録した便りを家族に送付して状況を確認していただいたり、面会時や「ご意見用紙」で家族の意見や要望を聞くように努められ、それらを基に、事業所独自の支援シートを作成して、全職員でモニタリング、カンファレンスを実施され、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「共に生きる」を掲げ、入居者および家族・地域・職員が、苑内行事・地域のお祭りへの参加など、日常生活を送るなかで喜怒哀楽を共に分かち合える環境作に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた「共に生きる」を事業所理念とし玄関に掲示して、月1回の職員会議、事業計画作成時などで話し合い、日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、清掃や集会などへ参加している。また、ボランティアを通じた地域住民との交流や、散歩・買い物、散髪など地域の一人としてお付き合いしている。	自治会に加入し回覧板で情報を得たり、総会や清掃活動等に参加し、事業所の消防訓練への参加や見学の案内をして地域住民の協力を得る努力をしている。民生委員、中学生コーラス部、保育園児、各種ボランティア等の来訪を受け入れたり、散歩時の挨拶、野菜の差し入れ、地域行事への参加等、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア来苑等施設イベントへ招待し、入居者や職員とのふれあいを通して苑の取り組みや認知症への理解を深めていただけるよう努めている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回が初めての評価であるが、全職員が評価項目に眼を通し、各自のレベルで意義の理解に努めた。	評価の意義を説明後、全職員に評価表を配布し各ユニット間で検討したものを、管理者がまとめている。	・全職員の評価の意義の理解と活用 の工夫
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	パワーポイントを使用し、現状報告および毎回テーマを設けて苑での取り組みを報告し、意見をいただいている。	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催している。事業計画や活動状況・事例報告・利用者の状況等について報告し、意見交換等を行いサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	山口市介護サービス提供事業者連絡協議会への参加や、市から依頼を受け地区民児協の施設見学受け入れなど、自己研鑽および相互理解に向け取り組んでいる。	市介護保険課とは更新申請・情報交換等を通して日ごろから協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室の窓など開錠・開放し、開放的な環境で過ごしていただけるようにしている。	マニュアルを作成し、職員は身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者が気付いた時には職員の指導をするよう努めている。玄関は施錠せず、外出を察知したときは一緒に出かけるなど工夫をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常ケアを行いながらお互いが無意識のうちに虐待行為を行っていないか、職員間で確認し合ながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度および日常生活支援事業の利用者を受け入れている。適切に利用できるよう関係者と協議し調整している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ねた上で十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付け担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。ご家族に「ご意見用紙」を配布し意見を求めるようにしている。	運営推進会議や面会時に家族と話す機会を設け、家族に「ご意見用紙」を配布するなどして意見や要望を聞くように努め、それらを運営に反映するよう努めている。苦情処理受付担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングに於いて、意見交換を行いより良い支援につなげられるよう努めている。また、年2回行う個別面接などにおいても意見などあれば、運営に反映できるよう努力している。	全職員が参加する職員会議時に出された意見や提案は検討して代表者に提出している。夜勤と宿直を設けたり、調理担当を常勤者にするなど職員の意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シート・面談により意見・要望などを把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。また、自己啓発に関する規定を設け、受講しやすい環境を作っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回開催の法人内部研修への参加や随時行われる外部研修への情報提供を行い、業務の一環として参加の機会を設けている。受講後は復命を行うと共に、研修内容を職員全員で共有できるようにしている。	毎月1回の法人内研修は基本的に全職員が参加している。外部研修は常勤・非常勤にかかわらず段階的に勤務の一環として受講の機会を提供し、受講後は復命し、全職員で共有している。事業所内での学習会を実施し、日常的には各ユニットリーダーを指導者として働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会や山口市介護サービス提供事業者連絡協議会が行う研修会等参加による交流や情報交換を行っている。また、法人が行う他グループホームとの情報交換を行いながらより良い施設作りを検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面接、医師・MSW・介護支援専門員からの聞き取りを行うことで、入居者の生活歴、思いを確認し、サービス導入時に安心して暮らせる環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では、不安などが解消できるような相談にのり、入居後は苑での近況報告を行うことで安心していただけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接を行い、どのような支援が必要か見極め、必要に応じて他のサービスについての情報提供・相談や利用の仕方などの説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・入居者共に一緒に生活する一人として、お互いが知恵と能力を出し合い、支え合って日々を過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りによる近況報告、面会時に家族との面接で、できる限り家族と職員とが情報の共有化ができるようにしている。それぞれの立場から支援を行うことより心豊かに過ごしていただけるような働きかけを行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族による面会拒否がない限りは、昔の同僚や近隣の方の面会を受け入れている。また、昔の知人によるボランティアなどの協力も得るなど、施設での暮らしが広がりあるものとして感じられるような支援を心がけている。	家族の協力を得て墓参りや馴染みの理容院に行っている。家族、昔の同僚、友人、趣味として習っていた三味線の先生などの来訪があり、年賀状、暑中見舞い、手紙、電話等の交流を大切にして馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意志を尊重し、自由に過ごしていただけるようにしている。入居者同士仲良く笑顔で過ごせるよう配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が終わりではなく、いつでも相談できる関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動、またケアへの反応など些細な気づきを元に本人の思いの把握に努め、担当者を中心にカンファレンスを設け希望に添えるよう努めている。	日々のケアや寄り添い時に利用者の思いや意向の把握に努め、介護記録に記入して、職員は朝礼時に共有している。月1回のカンファレンスで検討して個別経過記録に記入して介護計画に活かしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・ご家族からの聞き取りや関係機関からの情報提供、入居後に於いてはそれぞれ機会ある毎に聞き取った話を記録にし、支援の参考にしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や行動などを個別経過記録に記載すると共に、カンファレンスにより職員同士が情報の共有化を図っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握すると共に、月1回のカンファレンスを通して問題点や改善案を協議し、その場に即した支援計画を作成している。	本人・家族の意向を把握し、事業所独自の支援シート(状況、課題、目標、サービス、モニタリング等)を作成して、月1回のカンファレンスで担当者、ユニット職員、ユニットリーダー、計画作成者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、受診記録などから情報共有を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズの把握に努めると共に、医療機関(専門医)の受診や福祉用具の利用など広い視野を持ち、専門家による意見を聞きながら支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他事業所との交流やボランティア受け入れ、学生の職場体験などを通じた交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の意向を確認すると共に、適宜適切な受診の支援を行っている。また、協力医療機関とは密接な関係を保っており、状態に応じ相談・受診できる体制づくりをしている。	事業所の協力医の他、本人・家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診は家族同伴が基本であるが、通院介助の支援をすると共に、医師、本人・家族と話し合いながら情報を共有して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入居者に体調の変化があれば随時看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。また、施設看護師に於いては、協力医療機関の医師又は訪問看護師と相談し適切な対応が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族・主治医・MSWと情報交換を行いながら状況把握に努めている。退院時に医療機関などから得た情報をもとに、職員間で情報共有し受け入れを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時に施設の方針を説明している。受診状況をご家族に報告すると共に、重要な段階にきたときは、本人・家族・医師・訪問看護師・職員間で協議し支援している。	入居時に事業所の方針を本人・家族に説明している。重度化した場合は、状況に応じて本人、家族、関係者と話し合い、方針を共有して支援に取り組むよう努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	再び状況が発生しないよう、対応策についてはユニット間で協議し事故防止に取り組んでいる。また、消防署の協力を得て誤嚥時の応急対応についての指導を受ける、AED講習など行っている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、各ユニットで改善策について話し合い、家族に説明し、一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。AED講習や救急救命法の講習を実施している。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中・夜間想定で避難消火訓練を実施している。また、自治会へは訓練への参加を呼びかけると共に、災害に備え地域の自主防衛組織にも入っている。	年2回夜間想定を含めて避難消火訓練を実施している。自治会の総会時に訓練への参加や見学を依頼したり、自主防災組織に加入して地域の協力を呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた意向・意志尊重・敬意を持った声かけを行うようにし、馴れ合いにならないよう努めている。	職員が日常の介護で最も気をつけることとして話し合ったことが利用者への「声かけ」で、職員一人ひとりが入浴時の着脱や排泄誘導等の声かけや馴れ合いな話し方に配慮し、プライバシーを損ねない対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた声のかけ方を行っている。表出が難しい方には選択肢を与え、その中から選択できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設における大まかな生活リズムはあるが、起床から就寝まで個々の体調やその時々のお気持ちを尊重した時間を過ごして貰っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できる方については自主的に更衣されている。できない方については気候にあった服装ができるよう、職員と一緒に選んで着てもらっている。化粧品の補充や美容院の利用などご家族と相談しながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・後片付けなどは能力に応じて職員と一緒にやっている。また行事食・おやつ作りなどは、作る楽しみが共有できるような支援を行っている。	三食とも事業所で調理し、配膳や後片付けなど利用者のできることを職員と一緒にしている。メニューは職員が工夫し利用者にあった調理方法等を考えている。月1回の外出、焼肉パーティー、たこ焼きやケーキ作りなど食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や排泄状態、体重の増減を確認し、必要な方については医師と栄養状態を相談しながら指示を貰っている。個別に調理方法や盛りつけ方など摂取し易いよう工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りなどで一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握し、適宜声かけや誘導を行っている。	排泄表を作成して排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄支援に心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取量や運動を行うなど便秘対策を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	隔日が入浴できるようにしている。入浴拒否などがあれば、時間や入浴日を変更したり、職員が交代するなどの対応をしている。また、個別に入浴剤を使用されたり、温度調整が必要であるなど、入浴が楽しめる環境作りを行っている。	入浴は隔日の14時から17時で、ゆっくりと入浴できるよう支援している。希望すれば毎日入浴出来る。シャワー浴、清拭、足浴等個々の状況に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息や睡眠ができるようにしている。夜間良眠できるよう、日中の過ごし方などにも配慮した支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック簿により服薬管理を行い、薬事情報も直ぐに確認できる場所に設置している。服薬変更があれば連絡ノートを使用して周知できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、散歩、調理(下ごしらえ)など、自宅では当たり前に行っていたことが、入居してからでもできる楽しみや、過去に興味を持っていた趣味や習い事が活かせるような場の提供を行っている。	調理、清掃、園芸、季節行事、ぬり絵、折り紙、裁縫、陶芸、本読み、手芸、映画鑑賞、カラオケ、ボーリング大会、家族と交流する焼肉パーティーなど利用者一人ひとりの活躍できる場面や楽しみごととなるよう工夫して支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、在宅時より通っていた馴染みなる美容院へ行くことや、地域から情報をいただきイベントへやコンサートを見に行くなどの支援を行っている。	四季の花見(桜、菜の花、彼岸花、秋桜、向日葵など)、初詣、花火大会、プラネタリウム鑑賞に出かけたり、利用者の希望で家族との外出、日常的な散歩、買い物、ひなたぼっこなど出来る限りの外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自己管理されている方もおられるが、生活用品の購入やお小遣いについては家族よりお預かりし施設で管理している。一緒に出かけ商品を選んだり支払いをして貰ったりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りを発送を行っている。本人の希望があれば電話の取り次ぎや手紙をポストに入れるなどの支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう玄関やリビングには花や利用者が作成した作品を飾り、壁には思い出の写真を掲示している。	共用空間は広く、天窓からの自然光の明るさがやわらかく、その下に置かれたソファは利用者のくつろぎの場となっている。台所と食卓は向き合っ片付けや職員の見守りもし易く、壁には利用者の作品や写真が飾っており、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなど家具の配置を工夫し、落ち着ける場所作りを行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や生活用品は馴染みある物を持ってきて貰っている。家族の写真や手作りの手芸作品など飾り、それぞれが落ち着ける空間作りがされている。	タンス、時計、衣装ケース、衣装かけ、作品、写真椅子など思い出の品、好みの物、使い慣れた物を持ち込み、居心地よく、その人らしく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所については、理解し易いよう表示の工夫をしている。居室についても本人が解りやすいものを飾るなど認識し易い物にするなどしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳地あいおい苑

作成日: 平成24年 2月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全職員に評価の意義の理解ができていない。	全職員の評価の意義と理解と活用の工夫	①管理者を中心として、各項目の趣旨を全職員が理解できるよう職員会議で話し合う。 ②評価を理解することで、個々の取り組みが具体的に改善に活かしていく。	6ヶ月
2	35	急変時や事故発生時に備え、職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	全職員での応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施。	①全職員が救命講習へ参加ができるようにする。 ②看護師が中心となり、事故発生時の対応・応急手当の確認を定期的に行なう。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。